

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470103104		
法人名	株式会社けやき		
事業所名	グループホームけやき		
所在地	大分市横尾3607番地の1		
自己評価作成日	令和3年12月25日	評価結果市町村受理日	令和4年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4470103104-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4470103104-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府 壱番館 1F
訪問調査日	令和4年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の施設として17年になりました。職員は施設の理念として「自分が入りたい施設づくりを目指す」を心にとめ、ご利用者に寄り添いながら安心して過ごして頂ける様努めています。毎日のケアについて職員は朝礼の中で「認知症について」1分間スピーチを行い職員自身がケアへの心構えを発表し自身の成長の糧としています。又、毎月の全体会議での研修で認知症や、感染予防、介護技術、身体拘束、接遇、災害対策などの勉強会を重ね職員個々の資質の向上に努め、ご利用者へより良いケアの提供に努めています。ご利用者の体調管理については看護師を配置し医療連携を行っています。地域との連携については、2ヶ月毎の運営推進会議を開催し、自治会・民生委員・老人会、地域包括支援センター・老人会・家族代表・市役所・施設職員の参加を頂き、施設の課題や現状の報告を行い、皆様からアドバイス、ご意見を頂き日々のケアに活用しています。ご家族・ご利用者が「けやき」で良かった、地域の方から「近くにけやきがあるから安心」と思っていただけのように、これからも研鑽して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自分が入りたい施設を目指す」をキーワードにした理念で、利用者の気持ちに寄り添い自宅にいる時と同じように生活が送れるよう日々の支援を実践しています。管理者を中心に、職員が管理者を盛り立てながらケアの姿勢や、重度化及び高齢化傾向の中で、主治医・家族と職員がチームとして最終章への寄り添いのケアができるよう、職員の気持ちの持ち方や対応・役割分担等研修会や話し合いを通じ利用者・家族の思いを最優先に終末期ケアを支援しています。コロナ禍により外出・地域交流・面会等が制限される中、利用者のストレス軽減を考慮し、施設内でのレクや個々の楽しみごと等を工夫した対応を行っています。また、食事手作り提供され、行事食・利用者の好きな物等がメニューに反映され喜ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:2・22)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念の「自分が入りたい施設を目指す」を目標に、日々の朝礼や全体会議などを通じ、職員一同がケアの実践のなか、利用者にとって何が一番かを念頭に朝礼時、1分間スピーチ、職員心得を念頭に自分磨きを心掛けている	理念の共有・実践において、6項目の行動指針(職員心得)とともに各自名札の裏に貼り付けし確認できるようにしています。朝礼時には担当者が「1分間スピーチ」を行う中で、実践状況を振り返る機会を設けて意識付けを図り共有に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナの影響で地域住民の方との交流が出来ないところではあるが、運営推進会議などで施設の現状を報告し、地域の方へ発信している	地域行事の参加や事業所との交流を行ってききましたが、現在はコロナ禍により控えています。運営推進会議や広報誌等で情報交換を行う中、保育園児とのお手紙交換や敬老の日の記念品を頂く等、今できる地域交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括視線センターとの連携を密に行い「認知症」にで困りごとがある時は協力を惜しまないとしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットをまとめ状況の報告と改善策を報告し参加された方などに意見やアドバイスをいただきケアの改善に努めている	市担当者・自治会・老人会・民生委員・包括支援センター職員・家族代表等で2ヶ月毎に運営推進会議を開催しています。利用者の近況報告・ヒヤリハット報告とその取り組み等を議題に挙げ、参加者の意見やアドバイスを共有しサービスに反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告などは速やかに行いアドバイスをもらっている。人事配置についてなど思案することが起きた場合には相談し法令に違反しないように努めている	運営推進会議の出席時に相談やアドバイスを受けています。メール・FAXで情報交換を行っており、議事録の提出は、直接役所の窓口に出向き、顔の見える関係づくり等に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の中で意見の交換を行い、家族へは利用者の状況報告をしご理解を頂き、職員間では解除できるよう3ヶ月毎に委員会を開催している	身体拘束廃止委員会による研修を年2回と3ヶ月毎のアセスメントで勉強会を実施しています。自由を奪う行為・行動・考え方が拘束になることや、禁止の具体的な行為や精神的弊害等を理解しケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで「虐待とは」などの勉強会を開催している。身体的だけではなく言葉の虐待もあることを職員間で声掛けあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に利用者別の事案には接していないが利用者の変化については後見人の方に報告をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者からご利用者と身元引け人の方へ施設の概要、サービスの内容等法令に伴うことなどを説明し理解と納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご意見箱などを活用し、家族の要望等を職員会議などで周知し運営会議等で地域の方へも周知している	家族面会時や電話の機会に暮らしぶりを伝え積極的に意見等を聴くよう心掛けています。意見箱の設置や運営推進会議で出された家族の意見を職員会議に議題として挙げ、意見・要望を運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、朝礼、会議等で職員の意見を聞き運営やケアに活用している	職員の意見は、年2回の個別面談や会議等で聴く機会の他、管理者は現場で直接聞くように心掛けています。職員も自己評価(アンケート)を行うことで、思いや強みが把握され職員の意欲向上に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1度の人事評価を行い、職員のモチベーションの向上や勤務の希望などを把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加、年間研修を計画し各委員会に職員全員が参加し職員の資質の向上につとめている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との交流の機会は減っているが、電話など通信交流につとめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の初期から、ご本人の思い、ご家族の思い身体状況、精神状況などを把握し寄り添うケアを行い安心して過ごせる場の環境づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がご本人を中心に心配事や不安に感じていることなどを把握し、職員皆が同じ思いで家族との関係づくりをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の段階から、ご本人に必要なことは何か、生活を継続していくためにできない事だけではなく、できることに着目し現場で提供できるサービスをご本人を中心に提供してきた		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活の中で必要事は何か、ご本人が必要と感じていただける、職員とともに対等に支えられる関係を築けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日常の生活状況や思いをご家族に伝え、ご家族の思いを大切に家族やご本人のこれまでの生活のきずなの継続を支えていくことを大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティア活動、地域学校などの交流を実現実こうしてきたがコロナの関係で本年度は開催できていない	コロナ禍により友人・知人との直接交流は困難ではありますが、家族を通じ近況報告をお願いしています。馴染みの場所等の支援も家族の協力や、ドライブ(車の中から見学)で関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の場である生活空間を利用者の性格や個々の関係を把握し、ストレスなどが生じないように環境づくりに努めている。利用者同士の関係を築くのが難しい方についても孤立することがないように職員は寄り添う様にしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終結してもいつでも相談できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者ごとに担当職員を配置し日々の支援の中で本人の生活歴や思いなどを把握し他職員へも利用者本位のケアができるよう申し送りしている	利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、本人にあった支援に努めています。表出困難な利用者には担当職員が主になり、家族の情報を参考に思いを把握し、申し送りノートで情報共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時点での聞き取りなどで生活歴、こだわりなどを聞き取り生活の中で困りごとが起きていないかサービス記録をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録にご協力本人が発した言葉などを記録し、毎日の体調の把握と記録をしている。変化などについては申し送りノートの活用、朝礼時に申し送り現状の把握を射ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとの担当者決め、利用者のモニタリングを行い課題の明確化、支援の方向性を話し合い介護計画を作成している	介護計画の定期見直しは、6ヶ月を基本とし、アセスメント・モニタリングは必要に応じて課題を検討し、現状に即した計画を作成しています。介護計画に掲載できない細かい内容は、ケース記録にて職員間で情報共有を図り支援に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケア記録、夜間記録を行い、体調の把握や利用者変化について情報の把握と介護記録の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中で、その時々柔軟に対応し必要支援を、ご本人、ご家族ともに話し合い、医療との連携に努めサービスの多様化が可能か確認し提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携については直接の交流は難しい現状があるが、利用者への地域からの老人会からの連絡や差し入れ等がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の生活の中で、利用者の体調や家族の思いなどかかりつけの医療と連携を取りながらご本人や家族が不安にならないように支援している	利用者・家族の希望を伺い、入所前のかかりつけ医の受診支援を行っています。受診は、基本 家族対応ですが、状況に応じ職員が同行しています。家族・職員に結果を報告し医療との連携に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職も看護職も垣根を作ることなく利用者を第一に考え連絡を密にし情報の確認をしている、利用者を中心に適切に支援が受けられるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ入院や受診が必要となった時には、利用者のフェイスシートを活用しご本人の思いや病気の既往症や身体的、精神的の現状を情報交換して退院後の関係づくりにも行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化してきている現状がある、利用者の現状やご本人の思いの代弁やご家族の思いについて確認し、必要な選択肢を提供し方針を考えていただくようにしている	重度化や終末期の対応については、状況の変化に応じ医師・職員が家族の希望を伺い、今後の対応方針について話し合いの機会を設けています。看取りの経験もあり職員研修により更に意識の向上が図られています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については定期的に会議で訓練をしている、緊急時の連絡方法、連絡先などを一覧にしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、昼間や夜間を想定し訓練している。運営推進会議で地域の方へご相談しています	年2回の避難訓練を昼間・夜間を想定して行っています。緊急連絡網・緊急持ち出し品・備蓄の確認等実施しています。	運営推進会議を通じて地域の方々や消防団への協力依頼、ライフラインが止まった時の対応について検討される事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの現状や人格を尊重し、声掛けについても利用者の方のプライバシーや誇りを傷つけないように心掛けている。言葉の使い方も研修などで注意を促し、職員間で声掛けあっている	日々のケアの中で、一人ひとりの人格の尊重・プライバシー確保を念頭に声掛けに十分配慮し、職員間で確認の上対応しています。居室でゆっくり過ごされる時間を大切にプライバシー確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の生活リズムをご本人のリズムで決定してもらい無理強いをせず認知があり自己決定の難しい方についても以前の生活歴を大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での生活の中ですべてがご利用者の個々の思いに合わせることはできていないが、たとへば利用者が食後はどうしてもベットの休みたいなど、ご本人のペースに合わせた支援の方向を考え提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族、ご本人の生活歴などからその人らしい身だしなみができるように支援している。衣服の選択をご本人へ提供している。ご家族と連携をとりご自身が着たい服などを持参しておらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態を身体状況に合わせて作成している。かたづけなど無理のない状況で職員とともにしている	事業所内で調理され季節の食材を使ったメニューが提供されています。誕生日や行事食には好みの献立で食事を楽しんで頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嚥下状況や身体状況など看護、介護が連携し必要な栄養の提供に努めている。ご本人の習慣や必要に応じた食事介助をおこなっている。可能な限りご本人で食事が楽しめるように声掛けをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアについては利用者の残存機能におおじたケアを提供している。支援が必要な方へは出来ないところを見極めながらおこなっている。歯磨きは出来るだけご本人にお願いし、不足部分と最後の仕上げを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で排泄が可能な方については、ご本人のプライドを傷つけないよう見守り声掛けしている。排泄チェック表を活用し排泄のパターンを職員が把握しご本人が不快になることが無いようにと共にご本人が出来るだけ自身で排泄が可能な時が継続できるように支援している	自立の方以外は、声かけ誘導や見守りで対応しています。居室にトイレが設置されておりプライバシーの保護、羞恥心への配慮も伺えます。トイレで排泄する事で身体機能の向上が図られています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し排便の状況を確認しながら食物の摂取状況や水分状況を職員間で確認し個々に必要な支援を提供している。運動等も取り入れ便秘の予防にも取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴ができるように日々の体調チェックを行い安全に拝領した入浴をしている。入浴時間については利用者の思いや体調に合わせて支援している	週2回の入浴日になっていますが、その日の体調や希望を考慮して柔軟に対応しています。一人ひとりの意向を大切に寛ぎの時間になるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の体内時計に合わせて休まれる時間の工夫をしている。休まっている時間にも安否の確認を欠かさない様にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で各利用者の内服の状況を看護師を中心に連携し内服チェック表の確認、内服後の確認を複数の職員で行いケア記録に記入、誤薬がないか、内服後の利用者の体調変化などを職員間で申し送り確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴より利用者自身の出来ることを見出し、無理のない範囲で役割が出来き自身の生活に張りがでるように様々なことを提供している。カラオケの機械の購入や季節のイベントなどで楽しみを提供し、個々の嗜好品も病歴などを考慮し提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの状況により施設の外までは外出できていないが、施設の庭で外気浴などを楽しまれている。地域との交流は現時点は難しい状況である	コロナ禍で、戸外に出かける事は難しい状況ですが事業所の中庭でお茶をしたり、散歩をしたりと、外の空気に触れ気分転換ができるよう努めています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、ご利用者のお金については施設管理となっている。お一人のみ少額の金額について本人の管理としている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの便りや電話での会話が必要な場合などには連絡をしている。携帯からのビデオレターや(タブレットによるリモート面会を実施予定) ハガキや手紙はご本人が望まれるなら代読している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ファロア等にソファを置き利用者同士でゆっくり話ができるように空間を作っている。職員は利用者が不快にならないように季節を感じられる飾り物やBGMを活用している。湿度計を設置し温度の調整や光の入り具合などを調整している	2つのユニットを繋ぐ長い廊下は、歩行訓練に使われています。フロアにはソファが置かれ、気の合う利用者がゆっくり過ごせるように配慮されています。季節の飾りつけがされ、中央には台所があり家庭的な居心地の良い共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節季節の提示物などを個々の趣味に合わせて作成している。一人の時間が必要な時はさりげなく一人の空間を提供している。孤立しないような見守り声掛けに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者自身が生活していた空間との違いが無いように使い慣れた物を活用し、違和感が無いように努め安心して居心地よく過ごして頂くようにしている	入所前に使っていたソファ・こたつ・テレビ・タンス・仏壇等馴染みの品が置かれ、安心して居心地よく過ごせるように努めています。洗面台・トイレ・空気清浄機が設置されプライバシーや健康面にも配慮が見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴槽、トイレ等利用者が安全に過ごせる環境を作り努めている、利用者の身体状況、精神状況などに拝領し安心して生活が継続できるようにテーブルの配置や備品の配置に注意している		